

## 基調講演



### 【要旨】

- ・ 現在の国内旅行消費額は約 20 兆円で、訪日外国人の旅行消費額 3.7 兆円と比べ規模が大きいが、人口減少社会においては、海外からどのように人を呼ぶかというのが一つの大きなポイント。
- ・ 観光地域づくりをするにあたって、どこでどのようにお金を使ってもらうかを良く考えることが必要。
- ・ 地元の資本で古民家を再生したり、小規模でも上質なサービスを提供する宿泊施設を整備するなど、お金がしっかり地元へ落ちて地域に経済波及効果をもたらす仕組みを考えていくことも必要。
- ・ 豊富な観光資源のうち、何をどのように売るか、観光客の目線で考えることが重要だが、その際、どのような人に来てほしいかというターゲットを明確にすることも必要。
- ・ 観光客は、自分が住んでいる場所とは違う街並みや景観、異なる文化を見聞し体験したいと思っているもの。鹿児島ならではの文化振興が重要。また、明治維新 150 年を機に、当時の偉人達が過ごした街並みを彷彿とさせる街づくりを考えてみるのもいいのではないかと。
- ・ キャッシュレス対応、Wi-Fi 整備、多言語表示等観光客の目線で利便性を向上させる環境整備が必要。
- ・ 情報発信が重要だが、一定のブランド力を持った既存の媒体を活用することが、自治体や観光協会が独自でパンフレット等を作成し情報発信するよりも、安上がりで効果がある場合がある。
- ・ インターネットで旅行情報を得ることが多い現代において、口コミの果たす役割が大きく、SNS を活用して情報発信できるような環境整備も重要。その際、情報発信力の高い人をお願いして発信してもらうことも効果的。
- ・ 観光資源の説明をしっかりとできるガイドの育成等も重要。
- ・ 発地型から着地型へ観光が変化し、いわゆる観光業者だけでなく、地域の多様な主体が一体となって観光地域づくりに取り組むことが必要となっている状況の中で、関係者をコーディネートしてしっかりと観光戦略を立てる DMO の形成が必要。